



茨城県西部

メディカルセンター  
梶井 英治 病院長

# 新型コロナウイルス禍を 乗り越えるための 三つのお願い

新型コロナウイルスは、僅か一年の間に世界中に蔓延し、人々の健康や生活、そして社会経済活動に甚大な影響を及ぼしてきました。本県においても同感染症の流行が拡大し、11月末時点において感染者数は累計1561人、そのうち筑西市は15人となっています。

当院は、令和2年2月14日に同感染症に対するPCR検査を導入するとともに、地域の中核病院としての役割を果たすべく、新型コロナウイルスをいわゆる「災害」と位置づけ、早々に対策本部を立ち上げました。院内においては、病院玄関での体温測定・症状の聞き取り、発熱外来の設置、入院受け入れ体制の整備などを積極的に進めました。院外においては、保健所、市役所、医師会、病院・診療所と新型コロナウイルス対策の連携を図る

ことで、大きな地域医療の「わ」が見えてきたところです。合言葉は「住民のみなさんの命と健康を、そして地域を守る」です。

なお、当院は現在、新型コロナウイルスに関連する診療と入院治療を要する二次救急とを診療の中心的柱と位置づけ、職員一丸となって徹底した感染予防策を取り、気を緩めることなく、職務に励んでいます。

さて、新型コロナウイルス禍の中で新年を迎えるにあたり、市民のみなさんに三つのお願いがあります。

一つ目は「マスクと手指消毒並びに密の回避による予防の徹底」です。まずは、「自分」そして「家族」を守るために、今できる最大の予防手段を取っていただきたいと思えます。

二つ目は「周りの人を大切に、お

互いに優しく接する思いやりの心を持つこと」です。隣人との日常会話がとりにくい状況ではありますが、思いやりの心と行動が、新型コロナウイルス禍を乗り越える心の元気を充電してくれると思います。さらに、新型コロナウイルス患者やそのご家族に対する差別や偏見も生み出されなくなると思えます。

三つ目は「医療者に対し『ありがとう』の一言を添えてほしい」ということです。みなさんからのエールは、新型コロナウイルス禍の中で不安・恐怖と戦いながらも使命感を持って診療に従事している、多くの医療者の心の大きな支えになります。

新型コロナウイルス禍の収束は必ず訪れます。その日を迎えるまでみんなで力を合わせ、お互いに助け合いながら、一日一日、歩いていきましょう。

一日一日、歩いていきましょう。

## 感染症対策への寄付 (12/15 時点)



※明野ちびっこバドミントンクラブ様 消毒液 40ℓ

## 不当な差別や偏見をなくしましょう

新型コロナウイルス感染症に関連して、感染者・濃厚接触者、医療従事者などに対する誤解や偏見に基づく差別を行うことは許されません。公的機関の提供する正確な情報を入手し、冷静な行動をとるようにしましょう。

### 人権相談窓口

法務省の人権擁護機関では、新型コロナウイルス感染症に関連する不当な差別・偏見・いじめなどの被害に遭った人からの人権相談を受け付けています。困ったら、まずは相談してください。



法務省  
ホームページ